

城、春にして草木芽吹く中、知道会の江幡会長、奨学会の椎名会長をはじめとするご来賓、保護者の皆様をお迎えして、このように盛大に卒業式を挙げていただけますこと、大変ありがたく、心より御礼申し上げます。

まずは242名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。入学式の際、同じこの壇上から、名前を呼ばれ立ち上がる、まだ幼さも残る一人ひとりの姿を見ていました。それから3年、「艱難 汝を玉にす」との言葉の通り、時に悩み、時に焦り、時に壁にぶち当たりながら磨かれ、輝きと深みを増した皆さんの姿を目の当たりにして、感慨もひとしおです。

また、今日までお子様の成長を温かく見守り、心の底から心配し、喜怒哀楽を共にしてこられた保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

さて、今年度は、番号を振って生徒の皆さんに話をしてきました。3年生への2025年度第25話、最終回のテーマは、「薬医門たれ！」。

建築の歴史が専門の大学教授が来校された時のこと。薬医門をつぶさに見学され、「この部分は特にすごいですね。価値がありますね」。そう驚きの声を上げられました。「この部分」とは、どの部分だと思いませんか？ 壮麗な屋根ですか？ 太い柱や梁ですか？ ぶ厚い門扉ですか？ 硬い礎石ですか？

答えは、その何れでもありませんでした。「この^{いたかえるまた}板臺股、素晴らしいですね」。答えは、板臺股。

板臺股とは、屋根や天井などの上からくる重みを受け止め、支える板のことで、カエルが股を広げたような末広がりの形をしていることから「板臺股」と呼ばれます。皆さん、毎日のようにくぐってきた薬医門ですが、板臺股を見たことがありますか？ 屋根裏の、ほとんど陽の当たらない薄暗い場所にひっそりとあるので、見たことがない人も多いのではないのでしょうか。薬医門を見に来られる観光客は多いですが、板臺股はほぼスルーです。

しかし、本校薬医門の板臺股はとても立派で、雄大なもので、その特徴から、門そのものの建築年代が推定可能になるなど、文化財としての価値も非常に高いものです。

そんな天井の板臺股や、地上の礎石のように、目立たぬ場所にありながら、ひたむきに己の役割を全うし周りに尽くす、知る人ぞ知るリーダーが、皆さんの中から大いに出てほしい。

もちろん、壮麗な屋根のように誰もが目を見張るような華々しいリーダーや、太い柱や梁のように頼り甲斐のある優しいリーダー、ぶ厚い門扉のように危機の前面に立つ勇ましいリーダーも出てほしい。

どんな部分でもいい。広い世界の中で、身近な地域の中で、小さな家庭の中で、それぞれの個性を存分に活かし、薬医門の如き存在になってください。薬医門たれ！

おわりに、「2007年に日本で生まれた子供の半数は107歳まで生きる」との推計もあります。皆さんはまさにその世代です。あと90年ほどは続くであろう長い長い旅路の中で、高校時代の成功や失敗、達成や挫折、感動や葛藤、笑いや涙、出会いや別れ、それらの一つひとつが「伏線」として、幸せな形で回収されていくことを心より願って、式辞とします。最後に改めて、卒業おめでとう。そして3年間、ありがとう。



旧水戸城薬医門の板臺股

